

RI 会長代理 ビチャイ・ラタクル RI 元会長 講演 (福岡地区大会)

2014年4月13日

(改訂2版、含追加分 翻訳責任者 廣畑 富雄)

ガバナーの穴井元昭さん、私の仲間のロータリアンの皆様

この素晴らしい福岡市を訪れるのは、今回が初めてではありません。この度福岡を訪ねて、故郷に帰った様な気がします。随分前ですが、福岡のロータリークラブで話をし、多くの知己を得ました。今回そういう方々と語り会えるのは、故郷に帰るような気持ちです。

前回、RI 元理事の末永直行さんや、パストガバナーの廣畑富雄さん、そして多くの方々と、親しく交わることが出来ました。ロータリアンの皆様方の思いやりや優しさを思うにつけ、いつの日か福岡にもどり、旧交を温めたいと心から願っていました。

しかし、その夢が実現するのに、およそ10年かかりました。いま皆様の前に立ち、この地区大会で、皆様にお会いでき、非常に幸せであり、感謝の気持ちでいっぱいです。とくに、穴井元昭ガバナーと、善意と理解に満ちた状況で、知り合えた事は、幸せであり感謝でした。

さらに申し上げれば、私は皆様方に、とても感謝しています。とくに福岡の地に降り立つや否や、とても暖かく、友人として迎えて下さったロータリアンの方々全員に、感謝しています。

今回、私がロン・バートン会長およびジェティ夫人の代理として、この大会に出席するのは、非常に名誉なことであり、また私に与えられた特別の責務でもあります。

ですから、ロン・バートン会長から託された私の責任は重大であり、私は真摯にこの大会に臨み、大会を成功に導くため、はなはだ微力ながら、最善を尽くすつもりです。

このロータリー年度も、あと3カ月を残すのみとなり、次年度のテーマ「ロータリーに輝きを」が発表されました。新しいテーマが、この数カ月の内に、勢いを増し、現在のロン・バートン会長のテーマである「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」が、忘れられていくかもしれません。

これは有り得ることです。だが私は、各会長が提唱するテーマは、重要であり、会員の一人一人にとって、深い意味を持つものと信じます。各個人がどう考え、どう信じるか、その人が、金持ちでも貧しくとも、人々の生活を向上させるために、そのテーマを推進する願望の強さにかかっているのです。

なお、各テーマの背後にある理由をどう考えようとも、ロータリーの唯一の目標は、常に「超我の奉仕」であり、私たちに課せられた使命は常に「世界で良いことをしよう」です。

私の仲間であるロータリアンの皆さん、ロータリー運動は、世界の多くの国々で活動を強めており、特に亜大陸のインドで活動を強めています。

田中前会長の年度と、ロン・バートン現会長の年度には、事務局の運営に様々な変化がありました。

新しい事務総長、ジョン・ヒューコ氏の仕事のスタイルは、前の事務総長、エド・フタ氏のスタイルとは、大きく異なっています。管理・行政の再編成により、さらに多くの変化と、新しい考えが、徐々に現れてくるでしょう。

それがプラスであるか、マイナスであるか、我々は近いうちに知る事になりましょう。

現時点での、理事会とロータリー財団管理委員会の幾つかの決定は、皆さんの興味を引くだろうと思います。

- 1) すべての地区ガバナーは、地区に新世代委員会を任命するよう、勧められています。この委員会は、地区のインターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換や、ガバナーにより適当と認められる委員会と共に、活動します。この新世代委員会は、新世代に関する諸原則を前進させ、若い人々にかかわり、力を与える、そういうクラブや個人を認め、表彰するよう期待されています。
- 2) 国際研究会は、これまで国際委員会と共同で会合を開いてきましたが、今後は自動的にそうするのではなく、適切な開催地が見つかった場合に開催されます。シドニー国際大会の場合は、開かれないこととなります。
- 3) ロータリー平和センターの、目標の寄付金額に関して、財団管理委員会は、国際研究・留学のためのロータリーセンターは、ロータリー財団にとり、教育優先項目であることを再確認しました。これは、2000年10月の決定92号の再確認となります。また、2015年6月30日までに、1億2千5百万ドル（125億円）の寄付を集める、新しい目標を設定しました。ロータリー平和プログラムの費用を十分にカバーするためです。
- 4) 昨年4月の規定審議会については、私個人としては賛成しかねる事があります。それは規定審議会で採択された、ロータリーの会員資格に関する件です。つまり、職業を中断したり、あるいは、子供の世話や配偶者の仕事を手助けするため、一度も職業につかなかった人が、ロータリークラブの正会員になることが出来る、という条項です。

これは、職業分類の原則から、完全に逸脱しているし、他の資格条件からも逸脱しています。

私は思うのですが、会員資格についてのロータリーの傾向は、ただ会員を増やす、増やすことだけを目指している。そしてロータリーの基本的な原則を、全く排除してしまう、そういう方向に進んでいるように思えます。

私が心配するのは、ロータリーが近い将来、他の何処にでもあるようなクラブになりはしないか、という事です。ロータリーがその魅力を失い、その精神を失なう、先輩達から長く引きつがれてきた伝統を、失いはしないか、と心配しています。

55年前、私は33歳でした。そして、タイ国で2番目のロータリークラブの創立を、応援するように誘われ、そのクラブの44人の創立会員の一人になりました。

それから半世紀以上が過ぎた現在、私は今では、ただ一人残るチャーターメンバーになりました。今でも、そのクラブの会員になった最初の日のことや、最初の例会の事を思い出します。

それは信じられない経験でした。ロータリークラブのロータリアンになる、そう希望するのも信じられない事でしたが。

そうなんです、55年という歳月がたった今でもそうです。

55年前、仲間の創立会員と私は、良いロータリアンになろうと努めると共に、世界で良い事をしよう、そういう使命を果たすよう努めました。

多くの会員達は、世を去る前に実際そうしたのです。

しかし、今はすべての創立会員は去り、私は残された、ただ一人の創立会員となりました。しかし、その後 90 人の会員が、1958 年に固く誓った課題や約束を、実行しているのです。

此処におられる皆さんの多くは、今私がお話したのと同じ経験をされていると思います。だが私は、同じことを繰り返しても構わない、と思うのです。何故なら、良いロータリアンとなるための学習は、反復の過程にあり、果てしなく続く反復の過程です。私たちは、来る日も来る日も、良いロータリアンになろうと努める、人から教えられる以上に、思い起こして努める、それが大切です。

すべてが教えられ、チャレンジが無く、自らが気づかない、それではあまりに退屈です。

さて此処で、飲み水と少年のダルム君の話しをしましょう。

友人の皆さん、我々のように、飲み水に困った経験の無い者が、たった一滴の安全な飲み水が、どんなに有り難いか、想像できるでしょうか。

ダルム君には父親が居らず、しかも生後 7 ヶ月までしか、母親に育てられていません。

ダルム君は祖母と一緒に、線路わきの壊れかけた、木の小屋に住んでいました。

祖母は無学で、家の近くにある沼地から、野菜を集めてきて売り、やっと生活していました。1 日働いても、1 ドルに満たない収入でした。しかし彼女は、自分が生きるため、また、もっとも大切な肉親であるダルム君のために、必死でした。

ダルム君は 5 歳になると、近所の子供達と同じように、学校に行きたいと思いました。祖母に学校に行かせてほしいと懇願し、祖母は、感動的なことですが、まともな教育を受けなかったら、ダルム君の将来は無いと思い、学校に行くことに賛成しました。

そして入学式の日が来ました。やせた、肌が浅黒い年老いた婦人が、一人の男の子、ダルム君をつれて校門をくぐりました。その男の子は、肌一面に吹き出物ができ、青白い顔をし、体も小さく痩せこけ、またおびえた様子でした。

学校では、先生達や周りの子は、ダルム君はよく病気をし、見知らぬ人に怯え、学校をよく欠席する子だと思いました。

噂が流れ、ダルム君の父親は、エイズにかかって死んだと言われました。

ダルム君もエイズに罹っているのでしょうか？

教師達は、家庭訪問をして調べることにしました。

祖母と孫のダルム君が住む小屋を調べると、水道が来ていないことが分かりました。

近所の人のお話では、水道は引けるが、この貧しい女性は、水道料金が払えないために、放置されているとのことでした。

お金がないから、水道が止められたのです。

水は生命です。そして、雨は全く降りませんでした。

祖母もダルム君も絶望的でした。

二人は何とかして水を、どんな水でもいいから、見つけなければなりません。でも、一体どこに水があるのでしょうか。

他に方法がなく、二人はやっとのことで水を見つけました。

公共の下水道の出口から流れ出る水です。

公共の下水道の出口を砂袋で止めて、泥や汚れを沈殿させ、上澄みを飲み水にして、辛うじて生きていたのです。

しかし、下水道の出口からの水は、ダルム君に下痢、身体中の吹き出物や傷、体重減少、皮膚病をひき起したのです。

この子は、命が危ないと判断されました。このことが、地域のロータリーの諸クラブに知らされ、ロータリーは直ちに自治体に連絡し、病院に連絡しました。

「ロータリーを実践し みなに豊かな人生を」が、実行され始めたのです。

数日後には、水道が引かれ、またダルム君は、エイズの検査を受けました。幸いに検査結果は陰性でした。

ダルム君の問題は、ハッピーエンドになりました。祖母は、沼地に毎日食べ物を捜しに出かけて、生計を立てる必要がなくなりました。

その地域で、小さな工場を経営するロータリアンが、彼女に、工場内のメイドの仕事を与え、彼女は今日まで働いています。

これらのロータリアン達は、「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」を、実際に行ったのです。

しかし、私の仲間のロータリアンの皆さん、ダルム君の話は、これで終わったわけではありません。ダルム君の例に見られるように、この国の多くの地域で、住民や子供達に、清潔な飲料水が大変必要とされているのです。

国際ロータリーの直前会長の田中作次さんによる、「奉仕による平和」、大陸間に橋をかけ、地球上の人々をつなぐという、彼の偉大な努力は、自分のことは後にして、困っている他の人々の必要を満たすために行動する、ロータリアンの意識を目覚めさせたのです。

田中直前会長は、ロータリアンが、他の人々の困難に、深い共感を示せば示すほど、他の人々がより幸せに生きて行くよう、手助けする気持ちに、拍車がかかると信じています。

その結果、世界中の、特に日本のロータリアンの経済援助によって、多数の水の浄化システム装置が、タイのこの地域に設置されたのです。

過去に経験したことのない、最悪の山崩れや、激しい洪水で、被害を受けた人達に、数百万本の安全な飲料水のびんが、直ちに届けられました。

さらに、ダルム君が通う学校には図書室がなかったため、地域の人々の熱意により、幼稚園に行く前の子供のため、この国の東北部のすべての州に、図書室を設置することになったのです。その目的は、幼児期から正しい読み書きの基礎を作ることにより、成人後も読書の習慣を続け、読書が好きになり、ことに母国語を正しく話せるようにするためです。

教育省からの補助金のお蔭と、日本と台湾のロータリークラブによる、マッチンググラントと、WCSのプログラムのお蔭で、読み書きが出来るようにするプログラムが、熱心に進められました。

急速に、250以上の図書室が、その地域の学校とコミュニティに設置され、8万冊以上の図書が備えられました。

生徒、就学前の幼児、学校の教師だけでなく、親や一般市民も、図書室を訪れ、十分に活用しました。このプロジェクトが始まった最初の2年間に、400名の教師が、ロータリー企画の特別研修を受けましたが、地域の需要を満たすには、不十分でした。今日では、さらに進歩した技術と、オーストラリアのロータリアンの援助により、このプログラムだけでも、1000名近い教師が研修を受けました。

ダルム少年を援助する、ささやかに見える事業が、膨大な事業となり、おびただしい人たちに、恩恵を与え、生活の質を高めることになったのです。

しかし、仲間であるロータリアンの皆さん、ダルム少年のような例は、世界中には、皆さんの想像を絶するほど、多数存在するのです。

ダルム君のような生活は、今もなお続いており、私達の援助の手と、温かい思いやりが必要なのです。

ダルム君の運命にロータリーが気づき、ロータリーの良心を呼び起こし、行動に踏み切らせました。

残念なことに、「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」で活動できるロータリアンは、130万人に満たないのです。一方、何千万人の人々が、苦難に直面し、私達からの援助と、思いやりの心を待ち望んでおり、我々の援助で、生活を少しでも向上させたいのです。

そうです、ロータリーの奉仕は、傍観者であったり、たまに行うものではありません。

それは生活のあり方です。

ですから、もっと多くの人々を仲間にする必要があります。

一方では、会員増強は、私達の組織が生き残るためには必須であるものの、新会員は、ロータリーにふさわしい人であること、これが絶対に必要です。

ダルム君について話しながら、私は辻井伸行さんのこと、生まれながらに全く盲目であり、盲目のピアニストとして有名な、辻井さんのことを考えていました。

辻井さんは、天才とも言えます。完全な盲目という、ハンディを持ちながら、いつの日にか、世界の最高のピアニストになるという希望を捨てず、事実そうになりました。

辻井さんは、どこにでもいる、数百万人の障害者の一人です。しかし極めて例外的に、素晴らしい才能に恵まれ、世界の人々のために大いに貢献しています。

辻井さんの場合は、障害者の苦難を示すほんの一例です。そしてロータリーが、このような不幸な人達に、何が出来るかという事です。

私達は、全員を辻井さんのようにすることはできませんが、問題の大小にかかわらず、「ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を」、それを実行することができます。

ダルム君のエピソードがよい実例です。

28年前の1985年に、ポリオ根絶運動が始まり、私は当時の国際委員会の委員を、3年間務めました。

委員会のメンバーと私は、ロータリーの歴史上最初の資金調達キャンペーンに取り組みました。ロータリーの歴史上、最大の運動です。

その頃でさえ、ポリオ根絶運動が、簡単で楽なものとは思っていませんでした。しかし、根絶運動の開始後29年経った2014年の今日まで、ずっと継続するものと知っていたならば、ロータリーはこのような難問を引き受けたかどうか、疑問があります。

しかし、1985年当時でも、2014年の今我々が知っているように、これはやれるのだと知っていました。

当時でも、我々が今知っているように、ポリオ根絶計画の成功が何を意味するか、知っていたのです。世界の子供達にとって、障害者となった大人に対して、後に続く世代に対して、どういう意味を持っているか、またこの成功に勇気づけられ、さらにより成果を上げようとするロータリアンにとり、成功はどういう意味を持っているか、知っていたのです。

さて、友人であるロータリアンの皆さん、ロータリーの重要な要素の一つは、職業奉仕です。職業奉仕によって、ロータリーは、身近になり、健康的になります。

職業奉仕が、ロータリーの、基本原則として受け入れられているのは、もっともな事です。

そうです。我々は、他の組織がやっていない事をしている。職業奉仕は、ロータリーを、他のいかなる組織からも、峻別しているのです。

ロータリーの職業分類は、非常にユニークなものであり、世界的に、「ロータリーのトレードマーク」だと、認められています。

職業奉仕は、ロータリーの、基本的な特徴であり、一人一人のロータリアンに、社会が必要とする、倫理的な諸原則を守る、特別の権利を与えているのです。

職業奉仕は、職業上の高い倫理水準を思い起こさせます。またロータリーに入る前には、多分決して思う事のなかった、責任感を感じさせます。ロータリーの職業奉仕以上に、ベターで、より洗練された概念が、他の組織にあるのでしょうか？

世界の多くの地域で、職業奉仕は、魅力的ではないように見えるかもしれませんが。しかし私の考えでは、世界的に、企業にとり、より一層必要になってきています。特に政府が、道徳律を保持して事をなす、政治的リーダーが、最高に正直で公正に事をなす、その際に、非常に大切なのです。

私は同意するのですが、今日の世界では、会社や、時には政府でさえ、生存をかけて苦闘してい

ます。また企業や、政治のリーダーたちは、最も良い値、数値を示すよう、プレッシャーを感じ、倫理面をおろそかにする、その誘惑にかられるかもしれません。

近年、サブ・プライム・ローンの危機が起きました。沢山の金融機関は、合法的にビジネスをしていたはずだが（倫理的だったかもしれないが）、危機を迎えました。これらの銀行家たちが、高い誠実さ、高潔さを持つようとしていたか、疑問に思えます。

我々は皆知っているのですが、近年、倫理的でないビジネスをしている会社は、スキャンダルにまみれ、結局没落するのです。

同様に、専門的に、誠実でなく、高潔性を持たない企業のリーダー達は、一生の汚名を受けるでしょう。

誠実さ、高潔さは、人間関係にも影響します。つまり他の人が、あなたをどう見るか、そしてあなたと、ビジネスをしようとするかどうか、それに関わってきます。

ロータリーでは、高潔性は、複数の原則の上に成り立っていて、それに従えば、最高のモラルを維持する事になります。つまり、正直さ、忠誠であること、寛大さ、信頼できること、などです。

私の政治家として、またビジネスマンの経験から、次のことを確信しています。職業奉仕が、ロータリアンに最もふさわしく、社会に大変役立ち、自分自身をも向上させるものだ、という事です。

職業奉仕の概念は、ロータリーが1905年に創立され、その数年後、ロータリーの魅力をまし、その発展に、大変貢献したように思われます。

ロータリーの歴史を紐どくと、初めのサービス（奉仕）の考え、自分自身やクラブの他の会員に対する、ビジネスの上でのサービス（奉仕）の観念が、より高い位置に、つまり人の生活のすべての面で、他者へのサービス（奉仕）と援助——最終的には、全人類へのサービス（奉仕）に高められました。

この時点になると、重点は、「得ること」から、「与えること」に変わりました。何故なら、ロータリアン達は、他を助けようとする者に、利益が、ビジネスで得るものが、最も大きいと学んだからです。

ここでしばらく立ち止まり、自分自身に質問して下さい。

「職業奉仕の正しい方向に、我々は進んで行っているだろうか？」

「クラブで、あるいは地域社会で、職業奉仕を実践し、ロータリーを尊敬される存在にしているだろうか？」

皆さんが、どう考えるか知りませんが、私は職業奉仕が、我々がロータリーで今まで得たものの中で、最も貴重なものだと、保証し断言したいのです！

どんな犠牲を払っても、職業奉仕を保持し、維持しましょう！そして心の底から、実践しましょう。

偉大な彫刻家、グットゾン・ボルグラムの話があります。彼は、アブラハム・リンカーン大統領の胸像を創っていました。

彼は大変その彫刻に没頭し、スタジオに一人でいることを求め、誰にも制作中の胸像を見たり、コメントするのを許しませんでした。

昼の日光が弱くなり、たそがれ時になると、制作中の胸像にカバーがかけられ、彼の努力を示すのは、床に転がっている石のかけらのみでした。

夜になると、掃除をする女性が、そのかけらを掃き出しました。

ついに、胸像が完成しました。ボルグラムが立って、出来上がった胸像を見つめていると、掃除婦が入ってきて、この傑作を始めて見ました。

彼女は、畏敬の念に駆られ、「ボルグラムさん、リンカーンがあの大理石の塊の中に入っている、それがどうして分かったのですか？」と言いました。

この話は、多くの男女の人たちが、ロータリーに入った時の状態によく似ています。

ロータリーに入会した時、どれだけのポテンシャル、可能性があるか、全く知らないのです。

彼らが経験をつみ、ロータリーの哲学、考え方を知り、活動に参加し、他の会員とふれ合い、自分たちが全く違う存在になっている、ロータリアンになっている事に気が付きます。

石のままの状態、それは人です。ノミヤ、彫刻する技術、それは職業奉仕だ、とも言えるでしょう。

職業奉仕は、本当に、ロータリーの心であり、“たましい”なのです。

友人の皆さん、私がここにやって来たのは、ロータリーがすべてに答えを持っているとか、どんな問題でも解決できるとか、そう言うつもりではありません。

確かに、ロータリーは宗教ではありません。しかし、私が知る限り、最も活動的な団体です。通常は集まって一緒に座ることがない男女を、国境を超え、偏見や、利害や、職業や、社会的な批判を越え、人々を、男も女も、一緒にする、一つにできる団体です。

私は、ロータリーが、皆さんを今ここにこのように集めた、その事実が最も意義があることだと、申し上げたいのです。もしより意義のあることをしなくとも、これだけで意義があるのです。皆さんは、福岡県、佐賀県、長崎県の各地からここに集まり、理解し合い、信頼し合って、ここに共に座っているのです。

これはそれ自体が、ロータリーの意義の深いことなのです。

しかし、それは皆さんが集まって、話し合い、食事を共にする、それだけではありません。「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」を実現するように、共に働き共に奉仕する、それが本当に意義があることなのです。

私は希望し、祈るのですが、皆さんが次のことを常に心に抱いて頂きたい。将来の RI のテーマが、どんなものであってもです。

「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」！ です。